



Press Release

2014年3月17日

女性力を経営と製品イノベーションに積極活用 光機械製作所、「第一回エンパワーメント大賞 奨励賞」を受賞 経済産業省の「ダイバーシティ経営企業 100 選」にも選定

専用工作機械メーカーである株式会社光機械製作所（本社：三重県津市、代表取締役社長：西岡慶子、以下、光機械製作所）は、この度、公益財団法人日本生産性本部が主催する「第一回エンパワーメント大賞」の「奨励賞」、および経済産業省の「平成 25 年度ダイバーシティ経営企業 100 選」（経済産業大臣表彰）を受賞いたしました。いずれも、弊社がこれまで進めてきた、性別よりも能力・やる気、あるいは違いや特性を活かす人材育成や適材適所の人材活用の取り組みを評価いただいたものです。

「エンパワーメント大賞」は、公益財団法人日本生産性本部が、組織の生産性向上において女性の力が積極的に活かされるよう、独自性と創意工夫のある取り組みを行っている組織を表彰することを目的に、今年度新たに設けられたものです。今回の表彰企業には、優秀賞にプロクター & ギャンブル様、セブン & アイホールディングス様、奨励賞には鳥取大学医学部付属病院様、トヨタファイナンス様とともに弊社が選ばれ、2月25日に表彰を受けました。

さらに、光機械製作所は、3月3日に経済産業省の「平成 25 年度ダイバーシティ経営企業 100 選」にも選定されました。この賞は、性別、国籍、年齢、障がいにとらわれず一人ひとりが能力を発揮し、イノベーション、価値創造に参画していくダイバーシティ経営の重要性が高まる中、ダイバーシティ推進を経営成果に結びつけるべく先進的な取り組みを行っている企業を累計で 100 社程度を選定し、表彰するものです。同賞が始まった昨年度は 43 社が、そして今年度は弊社を含む 46 社が受賞しました。

（受賞企業と各社の取り組みは、<http://www.diversity100sen.go.jp/practice/index.html> に紹介されております。）

両賞とも、弊社の受賞理由について、これまで女性の活用が比較的遅れていた機械製造業にあって、女性の職域拡大を進めただけでなく、製品開発に思い切って女性を多く登用することで新たな着眼点を生み出し、製品のイノベーションを実現したことや、女性の特性を生産管理に活かした結果、即納率（顧客ニーズに即応する納期の迅速性や確実性を示す指標）や大幅な利益向上を達成したことなどを顕著な具体的事例として挙げていただきました。（次頁に取組みの一例や社員の声を参考までにご紹介しております。）

光機械製作所では、2001 年から女性の採用と活用を積極化させ、当時全体の約 1 割であった女性社員数が現在 3 割近くまで拡大しました。また事務職に限定されていた職域も、設計・開発、管理、製造現場にまで広がってきています。また、多くの女性が役職や専門性の高い仕事を担い、各現場のリーダー的存在として活躍しています。現在遂行中の中期経営計画では、「3G! Generation free, Gender free, Global」を人事戦略のスローガンとし、性別だけではなく年齢や国籍にまでダイバーシティの推進領域を広げ、社員一人ひとりの力が発揮されることによりイノベーションや顧客価値を生み出せる組織作りに注力しております。今回の表彰を励みとし、今後もダイバーシティ経営において様々な取組みを推進していきます。

【本件に関するお問い合わせ】

光機械製作所 経営サポートチーム 千田 (059)227-5511

Press Release

【参考資料：光機械製作所の女性活用の取組みについて】

女性力の活用推進に関わる取り組みの一例

■ 一人ひとりの能力を活かし、育てる人材育成

2009年にスタートした社長主宰の「経営塾」は、マーケティング、会計、経営哲学などマネジメント能力を高めるための社員教育の中心的な取組みの一つです。参加者は会社の次代を担う人材を育成するという観点から社長が指名、現在その3分の1が女性です。役職、職種、部門、性別を超えた参加者同士の議論などを通じて、互いに能力を高め、認め合う場にもなっています。

■ 工作機械の開発における女性参画の成果としてのイノベーション創出

2011年に始まった研削盤の開発プロジェクトでは、設計、機械オペレータ、生産管理、総務から女性社員を積極的に登用。結果、既成概念にとらわれない視点や発想で、「熟練技不要のダイヤモンド工具研削盤」の開発に至り、従来は職人の勘頼みだった加工が熟練者でなくてもできるようになりました。さらにこの機械はお客様の製造現場でも、女性や高齢者の方が操作しやすいよう、操作性やデザインにも配慮しています。

■ 女性の特性を活かされた生産管理チームで利益拡大を達成

顧客ニーズを納期面で実現する上で、各生産ラインの進捗を把握し、管理する「生産管理チーム」は工場の要。男性のみで構成されていたチームに、2004年、初めて女性を配置しました。その後、様々な効果を発揮したことから増員を進め、現在、生産管理チーム8名のうち5名が女性という、チーム編成となっています。細やかな配慮によってお客様のニーズをくみ取り、現場に反映させることで、即納率で高い水準を達成し、顧客満足度と利益拡大の向上につながっています。



女性の発想が開発に活かされた
「熟練技不要のダイヤモンド工具研削盤」

現場で活躍する女性たち

● 機械設計係 中本 友子

「産休や育休を仕事の上でマイナスにするのではなく、これまでとは違う視点を仕事に活かせるよう準備する機会にしたいと考えました。ももとは生産管理業務を担当していて、その前段階である設計の世界に興味を持っていました。復職後に設計の仕事に関われるどうかは別として、産休の間、自宅にいながら設計を学び専門性を高めてみたいと会社に相談したところ、勉強ツールの手配などいろいろな環境を整えてもらいました。そうした思いや勉強の成果が認められ、現在は設計部門で機械設計を担当しています」。

● 総務部 経営サポートチーム 人事担当 係長 千田千花

「新卒採用で多くの学生さんに会いますが、男女の間で仕事に対する意識の差がだんだん薄くなっていると感じます。そういった入社する方のニーズ、そして社会のニーズに応えられる体制を作っていくのも企業の責任だと考えています。理由や根拠があいまいだったりするとトップからもダメだしをされますが、女性だからということが人事制度の決定の制限になったことはこれまで一度もありません。私自身も以前は女性であることにどこか遠慮していたところがありましたが、会社での仕事を通じてこの10年で大きく意識が変わりました。こうした自分自身の経験も人事担当者として活かしていきたいと思っています」。

● 代表取締役社長 西岡慶子

「工作機械メーカーは一般的に理系の男性社員が多数を占めるものですが、弊社では多様な人材の才を結集することが、優位性を高め、イノベーションを創造することにつながり、グローバル競争下での成長の源泉になると確信して、女性を積極的に採用してきました。私自身が女性であるため、女性ならではの特性の活かし方や組織の中での不自由も理解しやすかったことも、こうした取り組みをいち早く進めてくれた理由かもしれません。有数の大企業の皆様とともに、今回弊社を表彰してくださったことへの評価と期待に応えられるよう、今後もダイバーシティ経営をしっかりと進めて参ります」。

光機械製作所ではこのほかにたくさんの女性社員が活躍しています。

(株)光機械製作所について

三重県津市を本拠とする専用工作機械メーカー。主な製品は、研削盤をはじめとする工作機械、切削工具、既存機械の性能向上を図るレトロフィット。特に、超硬工具加工用専用機や電解ロール研削盤では国内トップシェアの機種を持つ。創業1946年、従業員数92名（派遣、パートを含む／2014年3月末現在）。「Be professional! : プロ意識に徹する」を基本理念に、70年近く蓄積された技術とノウハウ、そしてたゆまぬ技術革新を融合させて、顧客に価値を提供できる高精度・高品質なモノ作りを目指している。2007年、経済産業省「明日の日本を支える元気なモノ作り中小企業300社」に選定、その他、三重県「男女がいきいきと働いている企業 選考委員会奨励賞」（2009）、津商工会議所「優良会員企業（環境改善分野）」（2009）、厚生労働省「23年度均等・両立推進企業表彰 均等推進企業部門 三重労働局長優良賞」（2011）、高齢・障害・求職者雇用支援機構「高齢者雇用開発コンテスト 理事長表彰 努力賞」（2013）などを受賞。2013年5月には、厚生労働省の若者応援企業宣言、三重県第一号になる。ホームページは、<http://www.hikarikikai.co.jp/>